

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい き だい ねん だい かい だい にち
(第13期 第2年 第1回 第2日)

ぎじろく
議事録

1 日時 2021(令和3)年5月23日(日) 午後2時00分～4時30分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 19人

グエン テイトウチャン、児玉 ノンティシヤ、シン バスカ バハドール、
スカーフ サラ デイナ、スチエタ スリニヴァサン、張 亮、チョ チョ
カイン、ドウマヤス アリヤン、ペレーラ ラヒル サンケータ、ポール
ウツザル クマル、ボソ ミゲル アンヘル、前田 喜与美、ムハマド
アイマン アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李 歆歆、劉 愛玲、
レイバーマン ケビン、ンディアエ マリ カテリン

(2) 事務局

ながぬま かちよう すがはら たんとうかちよう さとう かちよう ほさき もりした たんとうかちよう やまもと たんとう
係長、五十嵐 職員、高橋 専門調査員

(3) 参考人

みなみの なつこ とうようだいがくきょうじゆ ほんだ かずひさ とうかいだいがくきょうじゆ
南野 奈津子(東洋大学教授)、本田 量久(東海大学教授)

4 傍聴者 7人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2021年度第1回第2日を開催する。今日は、和田さん、カイさん、バテネブさん、許さん、金さん、池さん、アディティアさんが欠席だ。最初に机上配布している資料について報告する。4月13日に第13期の1年目の活動を正副委員長と部会長の4名で市長に報告してきた。市長からは『コロナ禍の限られたリソースの中で、会議を続けるためにいろいろな努力をしていることを評価します』という言葉もらった。提言についても『楽しみにしています』とのことだった。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、議事に入る。まずは、提言についてだ。事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、このあとは部会審議になる。全体会の再開は16時30分だ。」

【国際コミュニティ部会】

前田部会長「それでは、国際コミュニティ部会を始める。まずは、事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3、3-1に基づき説明)

前田部会長「それでは、コメントをいただきたい。本田先生お願いします。」

(本田先生よりコメント)

前田部会長「それでは、20分ほど意見交換の時間とする。質問や意見はあるか。」

グエン委員「人が集まる場所ということで、フォーマルな場所とインフォーマルな場所という話があったが、とくにインフォーマルな場所にどういった外国人が足を運ぶようになるのかアドバイスがあれば教えて欲しい。それとフォーマルなネットワークとインフォーマルなネットワークが連携するための

アドバイスがあれば教えて欲しい。」

本田先生「1つ目のインフォーマルな場所にどうすればたどり着くかということだが、オンラインで情報を発信していくという方法がある。みなさんは友人や家族などパーソナルなネットワークがある。先ほどカフェやエスニック料理店の話をしたが、飲食店はわかりやすい。そこでいろいろな情報共有をしていることが多い。飲食店もFacebookやTwitterなどをやっていることも多いので、そういったものをシェアしていくとよいのではないか。2つ目のフォーマルな場とインフォーマルな場を結びつけるという話だが、これは難しい部分がある。というのは、行政は中立でなければならないということがあるので、特定のお店をおすすめしたりすることはできないからである。結びつける機会としては、国際交流センターなどで開催されているイベントなどで行政とも連携・協力しているだろう。日本人の中にもいろいろな人がいて、おそらくは無関心な人が多いかもしれないが、自分たちの文化に関心を持ってもらえるような情報発信やコンテンツを考えるとよい。」

張副委員長「質問が2つある。1つは、インフォーマルな場に紙媒体を置くとしたら代表者会議としてお願いをするのか、それとも行政経由でお願いするのか。もう1つは、実はオンラインコミュニティの実現は難しそうだという状況なのだが、どうすればうまく提案できそうかアドバイスがあれば欲しい。」

本田先生「1つ目の誰がお願いをするのかということだが、これはたぶん行政ではない。代表者会議でもなく、個人だろう。私の理解では、そういったものを置いてもらうには何度も通って、顔を覚えてもらうことが重要だ。これは日本人でも同じだが、顔を覚えてもらえるといろいろと情報をもらえるようになる。オンラインの場合、結局そこにたどりつかないと意味がないということもある。2つ目のどうすれば提言になりそうかという話だが、多文化共生推進課のSNSのアカウントはすでにあるので、それと外国人市民のホームページが繋がっていくとよいかもしれない。ただ、行政は何でもできるわけではない。難しい問題だ。」

シン委員「インフォーマルな場所についてだが、コンビニなどにペイペイで払えますとか、Wi-Fiが使えますとかいったシールが貼ってあると思う。家のドアに子ども110のシールが貼ってあったりもする。同じような仕組みをつくれぬか。」

本田先生「先ほどお店に何度も通って顔を覚えてもらうという話をしたが、シール

が貼^はってあるからといって、いきなり相談^{そうだん}というのは難^{むずか}しいだろう。たとえば、多くの観光地^{かんこう ち}では、行政^{ぎょうせい}もSNSなどで情報発信^{じょうほうはっしん}しているが、実際^{じっさい}には観光^{かんこう}で訪^{おとず}れた外国人^{がいこくじん}の人^{ひと}たちが情報発信^{じょうほうはっしん}して、お互^{たが}いに情報共有^{じょうほうきょうゆう}している部分^{ぶぶん}が大きい。そう考えると、正確^{せいかく}な情報^{じょうほう}という意味^{いみ}では行政^{ぎょうせい}の情報発信^{じょうほうはっしん}は重要^{じゅうよう}ではあるが限界^{げんかい}もあって、外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}が発信^{はっしん}したり、外国人^{がいこくじん}市民^{しみん}同士^{どうし}で共有^{きょうゆう}したりする方が、有効性^{ゆうこうせい}が高い部分^{たか ぶぶん}もある。」

前田部会長^{まえだぶかいちやう}「そろそろ時間^{じかん}になるので、意見交換^{いけんこうかん}はここまでとする。5分間の休憩^{ふんかん きゅうけい}とする。」

(休憩^{きゅうけい})

前田部会長^{まえだぶかいちやう}「それでは、再開^{さいかい}する。まずはオンラインアンケートの結果^{おんらいんあんけーと けっか}について、事務局^{じむきょく}から説明^{せつめい}をお願い^{ねが}する。」

(事務局^{じむきょくい}五十嵐^{いがらし}職員^{しょくいん}が資料^{しりょう}5に基づき^{もと}説明^{せつめい})

前田部会長^{まえだぶかいちやう}「それでは、今日の先生^{きょうせい}からのコメント^{こめんと}やオンラインアンケートの結果^{おんらいんあんけーと けっか}をふまえて、今後^{こんご}どのように審議^{しんぎ}をしていくのか話し合^{はな}ひたい。感想^{かんそう}ではなく、提言^{ていげん}のことを意識^{いしき}して意見^{いけん}して欲^ほしい。」

スカーフ委員^{すかーふいん}「提言^{ていげん}にはつながらないのだが、やはりインフォーマルなつながりが効果^{こうか}的^{てき}だと思^{おも}う。オンラインアンケートも結局^{けつぎ}5件^{けん}しかない。多文化共生^{たぶんかきょうせい}推進課^{すいしんか}のSNSをもっと私^{わたし}たちがシェア^{しえあ}して拡散^{かくさん}していくことが重要^{じゅうよう}だと思^{おも}う。」

グエン委員^{ぐえんいん}「異文化交流^{いぶんかこうりゅう}についてだが、この代表者会議^{だいひょうしゃかいぎ}には各区^{かくく}に代表者^{だいひょうしゃ}がいる。まずは代表者^{だいひょうしゃ}が自分^{じぶん}の住^すんでいる区^くで交流^{こうりゅう}を深^{ふか}めるための取組^{とりぐみ}に関わること^{かか}がよいのではないかと思^{おも}う。」

ステータ委員^{すちえたいん}「オンラインアンケートについては、私^{わたし}たちも発信^{はっしん}した方^{ほう}がよかったと思^{おも}う。」

張副委員長^{ちやうふくいんちやう}「オンラインコミュニティについては、中^{ちゅう}・長期的^{ちやうきてき}なものとして、何^{なに}かできそうなことを考^{かんが}えられたらと思^{おも}う。」

前田部会長^{まえだぶかいちやう}「オンラインアンケートの中に、国際交流センター^{こくさいこうりゅうせんたー}が遠^とすぎるという意見^{いけん}があった。川崎市^{かわさきし}には国際交流センター^{こくさいこうりゅうせんたー}があるが、本来^{ほんらい}であればもっと身近^{みじか}な場所^{ばしょ}に複数^{ふくすう}あるのがよいと思^{おも}う。そういう場所^{ばしょ}があれば、人^{ひと}と人^{ひと}とのつながりもできるし、相談^{そうだん}や情報交換^{じょうほうこうかん}もできると思^{おも}う。過去^{かこ}の提言^{ていげん}で多文化共生^{たぶんかきょうせい}

ラウンジというものが出ているのだが、この提言を再提言するというのもよいかもかもしれない。」

チョ委員「ラウンジは、昼間に仕事をしている人も利用できるように、夜や土日でも使えるものがよい。インフォーマルな場所ということだとスーパーなどもよいかかなと思うが、多言語だと場所をとるということもある。難しいかもしれない。」

前田部会長「ラウンジについては以前に資料をもらっているが、あらためて勉強しなおすのはどうか。」

李委員「もし、もう一度提言するのであれば同じことを提言しても意味がないのではないか。実現できそうなかたちに工夫する必要があると思う。たとえば、図書館や市民館などすでにある施設や場所を活かす方が実現に近づくかもしれない。」

尹委員「異文化交流も地域貢献もコロナ禍でなかったらできると思うが、コロナ禍では難しい。今できることとして、オンラインコミュニケーションに絞った方がよいのではないか。」

前田部会長「具体的に何にフォーカスをあてるというアイデアはあるか。」

尹委員「私自身は詳しくないので、勉強したい。」

チョ委員「ホームページの改善など市にもできることがあるのではないか。」

前田部会長「そろそろ時間なので、今回の審議で必要な資料のリクエストを聞いた。」

張副委員長「各区に多文化推進事業の実行委員会のようなものがあると思うが、そこでどのようなニーズがあるのかを知りたい。」

前田部会長「私からはラウンジに関する他都市の参考情報が資料として欲しい。ほかに何かあるか。（なし）では、これで本日の国際コミュニティ部会を終わりにする。」

【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、部会を始めたい。まずは事務局から今日のスケジュールと資料について説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料4、4-1に基づき説明）

児玉部会長「何か質問はあるか。（なし）それでは、南野先生からコメントをお願いします。」

(みなみのせんせいよりコメント)

児玉部会長「それでは、コメントを受けての質問と意見交換をしたい。何かあるか。」

南野先生「私から質問してもよいか。みなさんに教えていただきたいのだが、前に千葉県で調査をしたときにやはり同じ国の人たち同士で情報を教えあったりしているということがあった。みなさんはそういったコミュニティがあるのか、どれくらい活動しているのか、どういうときに活かせるのかを教えてください。」

ペレーラ委員長「私の場合は、スリランカ出身の友達家族はいるが、コミュニティがあることは知らない。」

劉委員「私は台湾出身で留学生として日本に来た。10年経って、今は主婦として子育てをしている。留学生のときは台湾人の留学生会があって、ボランティアなどいろいろと活動していた。仕事をして子どもを産んだあとは、地域で保育園や幼稚園の親と知り合いになった。周りに台湾人は少ないのだが、中国人は結構いるので、LINEやチャットを交換したりして10人くらいのコミュニティでコロナのことや幼稚園のことなどを情報交換している。」

児玉部会長「私も2児の母なのだが、タイ人のコミュニティは多くない。タイ人の主婦はFacebookでつながっていて保育園のことなどを情報交換している。タイ人はFacebookとLINEを使っている人が多い。」

南野先生「やはり役立つか。」

児玉部会長「全部タイ語でやりとりができるのがよい。わからない日本語があっても、わかる人が教えてくれたりして助けあっている。」

ドゥマヤス委員「私も留学生だったので、在日フィリピン留学生会に参加していた。奨学金をどうやってもらうかななどを助けあったり、正月にどうするかなど情報を交換しあったりしていた。一番印象に残っているのは東日本大震災のときで、フィリピンの家族がすごく心配していたのだが、留学生のコミュニティを通じて連絡をとったり、助けあったりした。」

ボール委員「防災・災害のところで質問なのだが、防災行政無線に外国語を追加すると、なぜ日本人に情報が伝わらないというリスクにつながるのか。」

事務局高橋専門調査員「まず防災行政無線だが、正直に言って日本人でも1回で聞きとれるとは限らない。日本人なら1回聞けば理解できる、とは思わないで欲しい。多言語を増やせば、そのぶん日本語の頻度が少なくなるので、日本人が

情報を理解するのに時間がかかるという意味だ。」

ポール委員「日本人は日本に住んでいるので災害のことはわかっているのではないかな。外国人は日本語もわからないし、災害が起きたらどうすればよいかもわからない。先ほど先生が事前の勉強が大事とおっしゃったと思うが、事前に勉強しても災害がいつ起きるかはわからない。」

南野先生「法務省が行った、外国人はどこから情報を得ているか、という調査の結果が興味深い。中国、韓国ではFacebookの利用が少なく、逆に韓国ではLINEが、中国ではWeChatが多く、ほかの国ではWhatsAppというものだったりするらしい。みなさんが災害のときに一番利用しているツールが防災行政無線で、日本語しかなくて困るということなら多言語化という話もわかるが、もし情報収集のツールが防災行政無線ではないなら、実際に使っているツールの活用という話になるのではないかな。日本人でも防災行政無線はよくわからず、テレビを見た方が早いかもしれない。情報を得るためのツールはさまざまある。」

ユデク委員「災害では事前の準備が大切ということがよくわかった。私たちは日本語も話せるが、情報を得るためには外国人と日本人が混ざっているコミュニティがあるとよいと思った。町内会はあるが、参加してみたがよくわからなかった。何かよいアドバイスがあれば教えて欲しい。」

南野先生「自治会やPTAなどは日本の文化や地域性みたいなことも関係してくるので、そういったこともわかったうえで間に立ってつないでくれる人の存在が大事だと思う。3年くらい前に東京都で外国人コミュニティの養成講座のようなものがあり、そこにはいろいろな国の人がたくさん参加していた。」

ボソ委員「私の印象では、同国人だけのコミュニティだと正しい情報を得られないことがある。正しい情報を知るためには、地域の日本人たちと交流を持つことが大事だ。自分たちだけで何とかしようとしないう方がよい。」

南野先生「本当にそのとおりだと思う。もし何かうまくいっているケースがあれば教えて欲しい。」

ペレーラ委員長「まず、前回までは防災行政無線に英語だけでも追加すればよいと考えていたが、いろいろな言語の人がいるので英語だけでは対応できない人がいるということもわかった。コミュニティについてだが、私自身は妻が日本人なのでそこから情報を得られるということが大きい。あとは会社で日本人の同僚からも情報が得られるので、そうした情報を日本語が話せない

友人に紹介したりしている。」

児玉部会長「そろそろ時間になるが、先生から最後にコメントをいただきたい。」

南野先生「今日は短い時間の中で、私も聞きたいことがいろいろあった。提言を出す上では課題も大事だが、成功しているケースから学んで、それを増やしていくという議論をしてもよいかと思った。いろいろな意見を聞かせていただいてよかった。ありがとうございます。」

児玉部会長「それでは、先生との意見交換はここまでとしたい。5分間の休憩とする。」

(休憩)

児玉部会長「それでは、再開する。まずはオンラインアンケートの結果について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料5に基づき説明)

児玉部会長「それでは、今日の先生からのコメントもふまえて、今後の審議をどうするか話し合いたい。できれば、ただの感想ではなく、提言のことを意識して意見を言って欲しい。」

劉委員「先ほども地域のコミュニティリーダーの養成のような話もあったが、川崎市ではそのような取組はあるか。」

事務局高橋専門調査員「コミュニティリーダーの養成を目的とした講座はないと思う。

近いものとしては、国際交流協会でボランティア養成講座がある。」

レイバーマン委員「災害時に外国人はどのようなボランティアができるか知りたい。

何か支援ができるのであれば、協力したい。」

事務局高橋専門調査員「身近なところでは、避難所が開設されたときに、避難所の運営に協力してもらいたい。これについては、そのための仕組みづくりの提言がすでに出ている。」

劉委員「具体的に何かというのはまだないが、避難所の受付シートのような今後もずっと活用してもらえるようなものを代表者会議としてつくれるとよい。」

児玉部会長「オンラインアンケートにあった介護保険について、何か意見はあるか。」

劉委員「今まで提言していなかった新しい分野だと思う。」

ペレーラ委員長「これからは提言のためにテーマを絞っていかなければいけないが、

そのためにみなさんの考えを聞きたい。」

児玉部会長「では、1人ずつ聞いていくことにしたい。あまり時間はないので短めにお願いします。」

ポール委員「いろいろと意見を出し合った方がよいと思う。」

ボソ委員「具体的なアイデアが出ているものを提言にするのがよいと思う。今のところは防災・災害が具体的に感じる。」

ユデク委員「私も同じ意見だ。災害のための備えとしては、町内会の人たち、誰がどこに住んでいるのかもわからないので、何かリストがあるとよいかもしれない。」

ドウマヤス委員「やはりみなさんの関心が一番高いのは防災だと思う。やさしい日本語にするというのに賛成だ。」

ペレーラ委員長「医療と防災のどちらかで絞っていただけると思う。そのときに、町内会がすごく大事かと思う。町内会をうまく活用できないか。」

レイバーマン委員「絞りたいとは思っているが、まだイメージが湧かない。医療や防災では、血液型やアレルギーなど外国人が自分のことを知らせることができれば乗り越えられる問題もあると思う。」

ムハマド委員「私もまだイメージが湧かない。保育園については経験がないので、あまり協力できないかもしれない。防災・災害の重要度が高いと思う。」

リウ委員「私もテーマを絞るのには賛成だ。個人的には介護保険がよいのではないかとと思っている。認定調査シートを多言語化すると役に立つかもしれない。」

児玉部会長「私もまだ提言があまり出ていないので介護保険がよいと思う。多言語ツールの作成はできると思う。そろそろ時間なので次回の部会審議について決めたい。事務局から説明をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「これまでのみなさんの話を聞いていると、どのテーマでも早い段階で基本的な情報が欲しいということがあったと思う。これは提案だが、第12期の提言でオリエンテーションの開催というものが出ている。この提言はまさにいろいろな情報を外国人市民に伝えることを目的としている。この提言はまだ達成されていないので、第13期でももう一度提言してもよいかもしれない。提言にするかどうかは別として、次回の会議で資料を準備するので勉強してはどうか。もう1つ、何かツールをつくるという話が出てきて、ひとまず介護保険が候補にあがっているが、ほかのものでもよいかもしれない。」

ペレーラ委員長「提言にするかどうかは別として、オリエンテーションに興味があるのでぜひ勉強したい。」

児玉部会長「ちょうど事務局がトライアルでオリエンテーションをやるようなので、時間があればみなさん参加してみたい。それでは、時間になったのでこれで安心して生活部会を終わりにする。」

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは部会報告だ。安心して生活部会からお願いする。」

児玉部会長「それでは、安心して生活部会の報告をする。3つのテーマについて、南野先生からは主に次のようなコメントをもらった。1つ目のテーマの医療・保険については、多言語問診票のようなすでにあるものを有効に活用してください、とのことだった。2つ目のテーマの幼稚園・保育園については、いろいろと問題があるのだと思うが、親と園とのコミュニケーションの問題なのか、多言語化されていないことによる情報の不足なのか、など具体的な問題に絞った方がよい、とのことだった。3つ目のテーマの防災・災害については、川崎市だけではなくて日本全体でもさまざまな支援や取組がある。ただし、困っていても自分から動いたり、調べたりしないと何もわからない、とのことだった。そのあとの意見交換ではいろいろな意見が出たが、先生からは同国人のコミュニティの状況や情報をどうやって交換・共有しているかについて質問があった。また、同国人のコミュニティだけではなく、日本人も含めたコミュニティができるかという話もあった。あとは、コミュニティリーダーの養成についての紹介もあった。次回は、生活オリエンテーションについて審議する。ちょうど6月26日にオリエンテーションが開催されるので、ぜひみなさん参加したい。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。（なし）それでは、続いて国際コミュニティ部会の報告をお願いする。」

前田部会長「それでは、国際コミュニティ部会の報告をする。本田先生からコメントをもらい、その後、意見交換をした。その中でとくに重要だと感じたのは人とのつながりだ。国際コミュニティ部会のテーマの中には行政主導でのおんらいんコミュニティの構築というのがあるが、オンラインはもともとつながりがある場合にうまくいくというコメントがあった。また、そうしたつなが

りではカフェや飲食店のような同国人が集まるようなインフォーマルな場所というのも重要だったりするが、それはフォーマルな行政の役割とは違うということだった。情報の発信や拡散なら、市への提言ではなく私たちができることでもある。意見交換後の話し合いでは、次回は2015年の提言の多文化共生ラウンジについて検討してみようということになった。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、実行委員会報告だ。臨時会実行委員会の報告をお願いします。」

張副委員長「2021年度のオープン会議の開催についてどうするか話し合った。案としては3つで、1つ目にオープン会議としては開催せずに、通常の会議として開催する。2つ目に人数を制限したうえでオープン会議として開催する。3つ目にオンラインでオープン会議を開催する、というものだ。今日は、どれかに決まったわけではないので、引き続き次回も話し合う。」

ペレーラ委員長「続いて、ニューズレター編集委員会の報告をお願いします。」

スカーフ委員「9月に発行予定のニューズレターNo. 71について話し合った。今のところ、コロナの相談窓口、保育園・幼稚園の説明、という案が出ている。来月決定する予定だ。」

ペレーラ委員長「今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いします。」

【事務連絡】

- ・生活オリエンテーションの開催について
- ・市議会の傍聴について
- ・インターナショナル・フェスティバルinカワサキの中止について
- ・かわさき市民祭りの開催について

事務局高橋専門調査員「かわさき市民祭りの開催についてだが、市民祭りの事務局から代表者会議の意向を聞いて欲しいという依頼があった。事務局としては、昨年度と同様に開催が難しいと考えているが、『中止』ということでもよいか、ということだった。代表者会議として、中止に賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成)。それでは、代表者会議の意向として事務局に報告をしておく。」

ペレーラ委員長「それでは、これで今日の日程は終了だ。次回は6月20日、

にちようび、かわさきしこくさいこうりゅうせんたーでかいさい
日曜日、川崎市国際交流センターで開催する。これで、2021年度第1回第
2日のかいぎを終わりにする。」